

2021年8月14日
一般財団法人 日本気象協会

防災レポート Vol.13

前線に伴う今後の大雨・災害の見通し（第3報）

日本気象協会は、前線に伴う今後の大雨と災害の見通し（8月14日10時時点）に関する情報を、防災レポート（第3報）として発表します。

ポイント

- ・九州北部では既に、近年の過去最大雨量を大きく上回っており、危険な状態が続く。
- ・8月15日（日）にかけて、九州北部、中国地方、近畿北部、東海・北陸、関東甲信の各地域では、近年の観測値を大きく上回る豪雨の可能性があり、災害発生危険度が極めて高い。

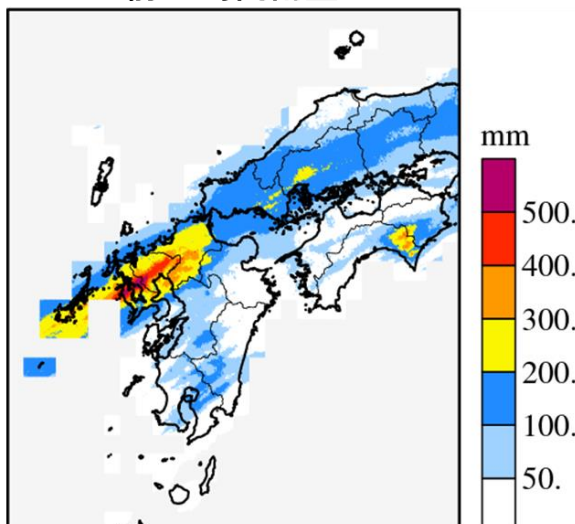
前線が本州付近に停滞し、前線に向かって水蒸気を大量に含んだ暖かく湿った空気が流れ込んでいます。九州北部、中国地方では記録的な大雨となっており、気象庁は8月14日、長崎県、佐賀県、福岡県、広島県に大雨特別警報を発表し、土砂災害や洪水による災害発生の危険度が極めて高い状況になっています。

日本気象協会が国土交通省解析雨量を用いて分析した結果、本日10時時点の前24時間雨量では400ミリを超える地点が発生しており、これまでの観測データの既往最大値（過去の最大値）に比べて150%を超えているところもあります（図1）。日本気象協会と静岡大学牛山素行教授との共同研究の結果（※1）によると、既往最大比150%を超えると犠牲者の発生数が急増する可能性があり、災害発生危険度が極めて高くなっていることを示していると言えます。

避難などされている方々は、引き続き安全な場所へとどまることが必要です。また、復旧作業にあたる方々は、今後の雨量情報を注視していただき、身の安全の確保を最優先に対応ください。

<8月14日10時時点実況>

前24時間雨量



各メッシュの 過去最大24時間雨量との比

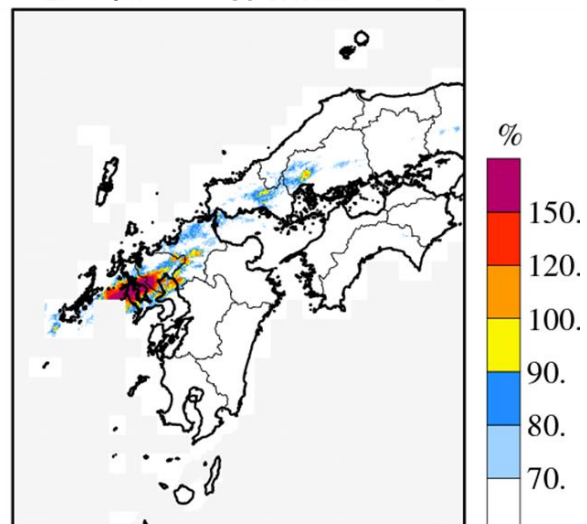


図1 8月14日（土）10時時点の前24時間雨量とその過去最大値との比（過去最大値の集計期間は

国土交通省解析雨量が1kmメッシュ解像度として整備された2006年5月～2020年12月)

日本気象協会独自の「JWA アンサンブル雨量予測」で算出している「過去最大雨量との比（既往最大比）」（図2）を見ると、九州から関東地方にかけて過去最大値に匹敵または超える雨量となることが予想されています。とくに九州北部から中国地方西部、北陸から岐阜県・長野県、茨城県では、既往最大比が120%、150%を超える可能性がある地点があり、これらの地域では災害発生危険度が極めて高くなる可能性があります。

JWAアンサンブル雨量予測 72時間雨量既往最大比

予測対象期間 8月14日0時～19日21時

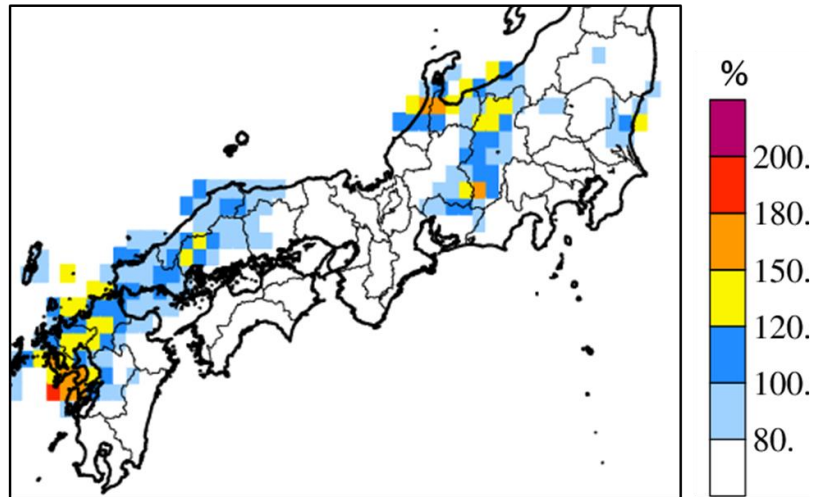


図2 8月14日10時時点の14日0時～19日21時にかけて予想される最大72時間雨量の過去最大値との比。

日本気象協会は牛山素行教授と共同で、過去の被害データと既往最大比の関係をもとに豪雨災害犠牲者の発生可能性を推計する手法の研究開発を行っています（※2）。その成果をもとに、今回予測されている雨量に対して犠牲者の発生可能性の推計を行った結果が図3になります。九州北部、中国、近畿、東海、北陸、関東甲信の広い範囲で人的被害が発生し、数十名規模の犠牲者が発生する可能性があります。広域での同時多発的な土砂災害の発生、河川の氾濫に厳重な警戒が必要です。危険なところにお住まいの方は、危険が迫る前に安全な場所へ移動するようにしてください。

災害犠牲者発生ポテンシャル予測

予測対象期間 8月14日0時～19日21時

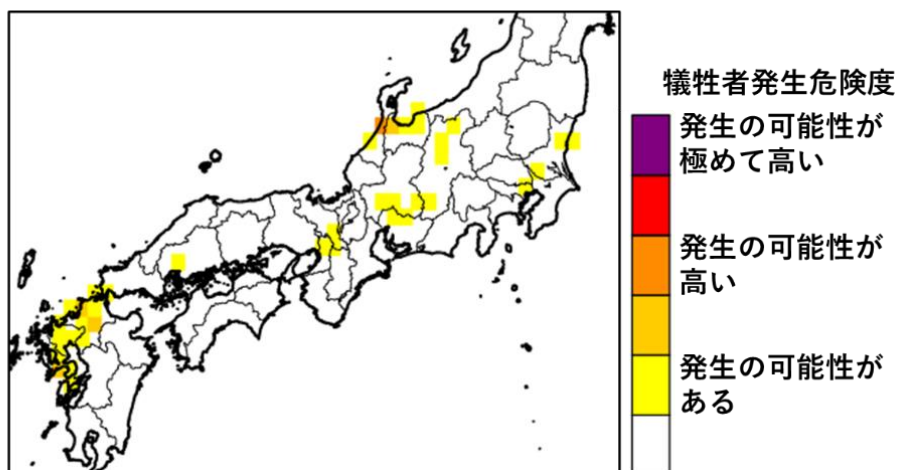


図3 8月14日10時時点の14日0時～19日21時にかけて予想される災害犠牲者の発生可能性予

測。

大雨は19日（木）ごろにかけても降り続くおそれがあります。最新の気象情報を確認し、厳重な警戒を続けてください。

※1 本間基寛・牛山素行：豪雨災害における人的被害ポテンシャルの推定に関する一考察 —平成30年7月豪雨を事例に一，第38回日本自然災害学会学術講演会講演概要集，pp.47-48，2019

※2 本間基寛・牛山素行：豪雨災害における人的被害ポテンシャルの推定の試み，日本災害情報学会第22回学会大会予稿集，pp.24-25，2020。

本情報は2021年8月14日10時時点の予測資料から作成したものです。最新の気象情報をご確認ください。

※日本気象協会の天気予報専門メディア「tenki.jp」では、「警報・注意報」「地震情報」「津波情報」「火山情報」「台風情報」などの防災情報（<https://tenki.jp/>）を24時間365日提供しています。



本間 基寛（ほんま もとひろ）

一般財団法人 日本気象協会

社会・防災事業部 専任主任技師

北海道生 北海道大学理学部卒業，東京大学大学院理学系研究科修士課程修了

京都大学防災研究所特任助教（非常勤）

静岡大学防災総合センター客員准教授（非常勤）

博士（工学）

技術士（建設部門：河川、砂防及び海岸・海洋）

気象予報士